

たのであります。然し乍ら最近は果して如何。生等は
今日と雖も決して閣下の君国に對せらるる誠意、民衆
を見らざる慈眼を疑ふものではありませぬが、如何せん
愚昧生等には、閣下の内閣の民衆愛護的態度が最近、早
くも色褪せ行くもの如く見做さるのであります。

首相閣下よ、刹那に降り来れる未曾有の震災火災は、
閣下の内閣をして又能く吐喘に未曾有の拳闘一致内閣を
らしめました。然し乍ら閣下よ、今や魔性の諸敵は、早
くも閣下の内閣をして、拳闘一致の足を失はしめんとて、
その鎗銃を現はしつゝあります。而も此の情況に就いて
生等を聊か懸念せしむるものけ。閣下の内閣をれ自身に
も亦多少の責任の存せざるやを思はしむる点であります。
首相閣下よ、閣下の内閣をして鋭迄も拳闘一致内閣を

らしめ、空前唯一の眞手拳闘一致内閣たりし處を述は、
それ故唯々、民衆内閣に在るの實質を具備せらるる事であ
り、成立当初の同接的声明を念々積極的に実行進め、具
體的に充實せしめらるる事であり、生等の建策の如き次
して監視せらるる事なく、之を極力採用すべく回向せらる
る事であらうと、生等は確し信じて疑はざるものであり
ます。眞の民衆内閣以外、帝制を復興せしむると同時に
帝國の社会的窮迫を救ふ政府はありませぬ。

首相閣下よ、生等は生等が敢て自ら身命を捧げて、そ
の興へらるべき如何なる役目を果さんとする、その非
常日本の現政府、閣下の内閣に對して、地位階級を顧
みずただ信頼の親しき庶民心理より、地に依りて之が採
用を渴望嘆願して止まざるものであります。國策は庶民